

令和5年度 下関商業高等学校 学校評価書

1	学校教育目標 ～スローガン「夢を志へ」～ 教育目標・・・・・・・・①社会人基礎力の育成 ②確かな学力の育成 ③キャリア教育の推進 ④部活動、学校行事等の充実 ⑤地域連携教育の推進 ⑥学校安全の質と水準の向上 めざす生徒像・・・・・・・・①経済社会の持続的な発展を支える職業人として必要な資質・能力を備えた生徒 ②多様な人々と連携・協力しながら、様々な困難を乗り越えていくことのできる生徒 ③他者を思いやり、社会に貢献しようとする態度や感謝する心をもった生徒 ④激しい時代の変化に対応しながら、主体的に未来を切り拓く力をもった生徒 ⑤郷土に誇りと愛着をもつとともに、グローバルな視野を合わせもった生徒 日常生活での実践・・・①進んで挨拶をする。 ②掃除を徹底する。 ③時間・約束を守る。 ④服装・身なりを整える。 ～凡事徹底～ チャレンジ目標・・・①国公立大学20名以上合格 ②就職100%内定、3年間は離職しない進路意識の涵養 ③資格取得 全商検定1級3種目以上合格40名以上
---	--

2	現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて） 総務 他の分掌と連携して学校行事の円滑な運営と行事の精選を図っていききたい。学校の的確な情報を迅速に発信できるようにしたい。 教務 新教育課程移行に伴う授業の運用や、学習評価の定着・検討を行う。業務内容の効率化を図り、教員の負担の軽減と理解を深める。 生徒指導 学校行事や各種委員会活動の活性化を図り、生徒の満足度を上げていききたい。身だしなみについては、就職面接での服装を基準として教職員の共通理解のもと指導を進めていききたい。 進路指導 昨年度進学は国公立大学21名をはじめ多くの生徒が第1志望の進学先に合格し、就職については12年連続就職内定率100%を達成することができた。3学年団と協力して生徒の進路実現に努めていききたい。また各学年での進路ガイダンスを有効に活用したい。 保健体育 担任等と連携し、健康観察や治療勧奨を行うとともに、保健日より生活アンケート等を通じて健康情報の発信を行い、生徒の自己健康管理能力を育てたい。 教育相談・人権教育 生徒が安心して学校生活を送れるよう適切な支援を全校体制で行いたい。また、自己肯定感を培い他者尊重の意識を育める環境づくりに努めたい。 図書 魅力的な図書館となるよう、生徒のニーズと学びを兼ね備えた選書を心掛けたい。読書・学習・情報の各センターとしてのそれぞれの機能を、時代に合った形でより洗練させていききたい。 情報 昨年度に引き続き、校務システムを新たな学習評価の基準に対応・整備し、滞りないよう運用・管理を行う。学習用端末を積極的に活用できるよう、研修の実施や規定の整備等を行い、不具合等が発生した場合は迅速に対応できるよう努める。 1年 自分の可能性を広げることができるよう新たなことに挑戦し、自分を成長・進化させる指導・支援を行う。他者や社会に貢献できる人材になれるよう取り組みを行いたい。 2年 中核学年として学習・行事・部活動等、意欲的に取り組めるようサポートする。また、ひとりひとりが進路実現に向けて視野を広げ、挑戦しようとする力を育めるよう支援する。あらゆる場面で自己肯定感とともに他者を思いやる心を培う。 3年 社会の情勢に変化がある中でも、教職員、地域社会との関係をしっかりと構築し、生徒全員の進路実現をめざす。 商業 校内外での研修を充実させ、授業参観や研究授業などを継続して行う。地域社会に貢献できる人材を育成できるよう、地元企業と連携し、社会人基礎力、ビジネスマナー、実践力を育成していく。卒業までに全商検定1級3種目以上30名をめざす。 情報処理 クラス担任・教科担当者等との連携・協力を深め、資格取得や進路実現に向けて適切な指導を行う。ビジネス情報やプログラミングに対する興味関心をしっかりと持たせ、より高度な資格取得を目標にする。 業務改善 「業務の見直し・効率化」、「勤務体制等の改善」、「学校支援人材の活用」の3つの柱をもとに働き方改革を推進し、各業務の目的を共有し協働して教育活動を行う業務体制を整えたい。また、教職員が心身ともに良好に業務を進めることができる職場づくりに取り組みたい。
---	---

3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題
「未来に富める人づくり」のための4つの柱・・・①**輪をつなぐ**（3年間を見通したキャリア教育の推進） ②**地域をつなぐ**（保護者・地域との連携強化と積極的な情報発信） ③**学びをつなぐ**（確かな学力・社会人基礎力の育成と資格取得の奨励） ④**心をつなぐ**（生徒一人ひとりに寄り添う教育相談体制の充実）

4	自己評価	評価（自己評価）				5 学校関係者評価		
		A達成できている	B概ね達成できている	Cやや不十分である	D不十分である	総合評価	評価	
総務	情報発信の充実	①インターネットを使った情報発信	学校評価アンケート（保護者）の項目で「お子様の学校生活の様子は、ホームページ等で、家庭へよく伝わっていると思う。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	保護者	78.2%	評価の値が80パーセントにわずかに届かなかったことは残念であったが、昨年度と同様に引き続き高く評価されている。できるだけタイムリーに更新して情報提供が頻繁になされていた。	B	・保護者の肯定的評価が80%近いことは、素晴らしいと思う。 ・保護者の子供の学校生活への関心は高く、十分に評価されていると思う。 ・県内外のHPに比べて、シンプル過ぎて、商業のイメージが伝わっていない。 ・内容が充実しており、情報発信が良くできていると思う。 ・コロナへの対応が先頭に標記されているが、これはタイムリーな更新とは言えない。一年近く経過しているの、今伝える情報に更新すべきと思う。
		②学校案内による学校紹介	学校案内が分かりやすく編集されている。	資料		配布先で好評で、よく活用されている。	A	・引き続き充実に努めてほしい。 ・きめ細かくタイムリーな情報提供がなされているようで、担当者のご苦労がうかがえる。 ・充実した内容となっている。
教務	学力向上	①基礎学力の充実に着目した授業づくり ②自主学習の習慣化への工夫 ③補習・課外や個別指導 ④基礎力診断テストの活用	学校評価アンケート（生徒）で「あなたは、授業に積極的に取り組んでいる。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	95.9%	・今年度は2年生が観点別評価の方法が変わり、各教員が各観点に応じた学習指導や評価の方法を研究している。また、3年生においても学力の定着やわかりやすい授業・理解度に合った授業を進める努力が行われている。アンケートの結果からも授業が分かりやすいと感じる生徒や、興味関心を持つようになる生徒が高い水準を維持していることが分かる。	B	・教員と生徒の学習への思いがマッチングしていることがみえる。より向上させるためには家庭学習の習慣を高められると良い。 ・評価が高すぎる気もするが、積極的な取組と評価する。 ・家庭学習ができない環境についても調べないといけない。学内や学習のできる場が必要だと思う。 ・唯一の市立高校なので、県立に負けないプライドを持って指導してもらいたい。 ・昨年と同程度の高い水準であり、生徒・教師共に学力向上への意欲が伺える。ただ、4%の生徒が取り残されないように気を配ってほしい。 ・授業に積極的に取り組みかつ理解度も高い水準を維持しているので心配はないと思うが、理解度の低い生徒がより予習・復習に取り組めるように工夫・指導してほしい。 ・引き続き工夫を行って、基礎学力の向上に努めてほしい。 ・先生方の授業づくりの工夫等により、9割越えの生徒が十分理解していると答えているのは評価できる。10%の生徒も理解度が高められるように工夫してほしい。 ・授業参観させていただいた時も、熱心に授業を受けていた。 ・来年度の課題が明確になっていることは、改善に向けての取組の第一歩である。
			学校評価アンケート（生徒）で「あなたは、家庭学習を行う習慣ができていると思う。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	70.4%	・生徒の授業への取組は昨年度より高い水準を維持している。予習・復習に取り組む生徒は70%台で横ばいとなっており、教員側の指導の工夫や本人に対する意識の向上を図る必要がある。また基礎力診断テストの結果などから、生徒の基礎学力の向上は達成されていると言える。		
			学校評価アンケート（教員）で「私は、基礎学力の充実に向けた授業づくりの工夫を行っている。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	教員	96.7%	・生徒の授業への取組は高い水準を維持しているが、平日の家庭学習の時間は今年の後半にかけて大きく減少している。特に30分以内の生徒が昨年度より5%減少している。若干ではあるが完全しているので先生方と協力して向上させていきたい。		
			学校評価アンケート（生徒）で「あなたは、学校の授業について十分理解していると思う。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	90.7%	・今年度は、生徒の評価ポイントは昨年度と同じ程度の水準を維持している。また、若干ではあるが予習をしていると答えた生徒が減少している。来年度の課題としては、家庭学習の定着と継続して学習する習慣を維持することを指導の目標とした。		
			基礎力診断テストの状況	資料				
教員の指導力向上	①生徒による授業評価の実施 ②研究授業、公開授業の実施 ③校内外の研修会への積極的参加	学校評価アンケート（生徒）で「先生方は、あなたの学力の定着を図るための授業や補習など熱心に取り組んでいると思う。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	93.8%	・教員の授業に対する意識が高いようだが、多忙がそれを妨げているようだ。改善を期待したい。 ・先生方の負担が年々増加しているのは理解するが、その改善がどのように実施されているのか。 ・この内容について見たり、知ったり、聞いたり、またHP上で発信されたりの工夫がない。 ・日頃の雑務の簡略化を目指して、市や関連の委員の協力をお願いしたい。	B	・熱意が生徒にもよく伝わっているのは教員のやる気にもつながり素晴らしいことです。 ・教員の過重労働解消は、人員増などによる改善策が望まれますがなかなか難しいのが現実だと思います。 ・2024年問題として民間企業や医師の働き方改革への具体的な取り組みは示されていますが、学校現場の長時間労働への解消についてもガイドラインに沿った対策に取り組んでください。 ・研究や研修会への参加も余裕をもってできるといいですね。 ・授業改善への取組は100%でありたい。	
		学校評価アンケート（教員）で「授業アンケートの結果に基づき、授業改善に取り組んでいる。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	教員	86.7%	・教員の熱意は生徒に伝わっており、また、教員側も授業改善に積極的に取り組んでいる。ただし、業務の多忙化は解消されておらず、授業研究の時間は十分に確保できていない現状がある。教材の共有や業務の簡略化など教務の立場で改善できるところは取り組んでいきたい。			
		学校評価アンケート（教員）で「教材研究、公開授業や各種研修会等に参加するなど授業研究に取り組んでいる。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	教員	70.0%				

教務	学習支援体制作り	①学習内容の充実 ②授業時間の確保 ③評価基準の検討・改善	学校評価アンケート（生徒）で「本校は、進路に応じた教育課程や選択科目が用意してあると思う。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	95.2%	・本校に入学した生徒のほとんどが充実した学校生活を送れている。今後も教育活動の充実を図りたい。	A	・悩みの多い年頃の不安を取り除く学校運営の素晴らしさは、十分評価できる。 ・進学の内訳は専門学校等への入学が多い為、教育課程や選択科目、それと地域連携での経験などの幅を広げてほしい。 ・生徒一人ひとりに応じた対応を念頭において指導にあたっていただければと思う。	A
			学校評価アンケート（生徒）で「先生方は、あなたの理解度に合った適切な学習指導をしていると思う。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	89.3%				
生徒指導	学校行事の充実	①各種委員長の選抜方法の見直し ②学校行事の見直し ③各種委員会の活性化 ④学校行事の分担制	学校評価アンケート（生徒）で「学校行事等の満足度」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	94.5%	・学校行事について、5月の連休以降感染予防に努めながらも、コロナ禍以前の状態に戻して学校行事の運営を行うことが出来た。 ・「鹿児島商業姉妹校交流会」では、鹿児島商業高校のみなさんを迎え、本校で生徒会交流と硬式野球部の親善試合を全校応援で行った。 ・下商祭においても制限のない状態で、多くの保護者や一般の方々にも来校していただき実施することが出来た。	A	・様々な苦労があっただろうが、大きな経験ができたようで、良い思い出になってよかった。 ・生徒の満足度が高いという事実は素晴らしい。 ・コロナ禍以前の学校行事の復活は高校生活の充実には欠かすことができないものであるため、実施することができて本当に良かった。 ・高校生にとって学校行事は非常に盛り上がる内容となっているように感じる。	A
	生徒の規範意識の向上	①頭髮服装指導の実施 ②登校指導の実施 ③風紀委員による挨拶運動の実施 ④J R乗車指導の実施 ⑤通学路指導の実施	学校評価アンケート（生徒）で「校則や決まり事を守っている」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	97.6%	学校の取り組みとして、服装頭髪検査は年間を通して8回程度、J Rの乗車指導と通学路指導は各学期に「回すつ回り、適宜指導を行った。また、服育セミナーや風紀委員の挨拶運動等を通して、生徒の規範意識の向上を図っている。通学路の危険箇所についても、「本校テニスコート周辺から県道」「東進予備校付近」に街灯の設置要望を県に提出している。	A	・真っ直ぐに育っている感がある。 ・ジーンダーレス制服の採用など服装も性差を感じさせない多様性への配慮と大きく変化しているが、一定の規律は必要であるため風紀の乱れには引き続き注意してほしい。 ・改善がなされており、素晴らしい。	A
	環境美化の推進	①清掃活動の推進 ②美化委員による掃除用具の点検 ③行事前のボランティアによる清掃活動 ④大掃除の定期的な実施 ⑤クリーン大作戦の実施	学校評価アンケート（生徒）で「意欲的に清掃活動に取り組んでいる」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	84.9%	今年度も引き続き、「掃除区域の見直し」や「掃除道具の点検」を重点的に取り組んだ。生徒の「清掃活動に意欲的に取り組んでいる」の項目が、昨年度91%から、今年度84.9%と数値が下がっており、委員会活動などを通して、さらなる向上を図っていく必要がある。今年度は校外の清掃活動として、各学年ごとにクリーン作戦として学校周辺の清掃活動を企画、実施することが出来た。	B	・真っ直ぐに育っている感がある。 ・講堂や生徒が利用するところで出来ないところがある。 ・環境美化への取り組みは出たゴミの清掃やSDGsへの取り組みとして、捨てないことへの意識付けも必要だと考えます。	B
	情報モラル教室の推進	①携帯安全教室の実施 ②新入生へのSNSトラブルの注意喚起	携帯安全教室のアンケート結果において、「SNSの利用を見直そうと思った」の項目が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒		情報モラル教室として、「携帯安全教室」を5月に実施した。今年度は、下関警察署より講師を招き、SNS上のトラブル防止の観点から講演をしていただいた。また、仮入学において「情報モラル教室」を行い、保護者も含め注意喚起を行うことが出来た。ただ、今年度は実施後のアンケートを行うことが出来ておらず、来年度は実施後の理解度などを知るためにもアンケートを実施したいと考える。	B	・SNSトラブルで悩んでいる生徒のフォローもお願いしたい。 ・情報モラルは令和に入っても重要で、継続して行なってほしい。 ・身近なところでもSNSによるトラブルが増えたり、今後も専門家を講師とした講習を行い、SNSの利用について学ぶ機会を持つことは必要であると思う。 ・情報処理活用の多様化に向けて、生活だけでなくクラブ活動を含めて活性化に努力してほしい。 ・日々の生活では携帯への依存度が大きく若者男女問わずにしている。特にフィッシング詐欺なども巧妙化しているため、この様な取組は継続すべきと考えます。 ・生徒が加害者にも被害者にもならないためにも継続的な指導が必要である。	B
進路指導	キャリア教育の充実	①生徒・保護者への進路情報の提供 ②進路ガイダンスの実施 ③3年間のキャリア教育に基づいた指導	学校評価アンケートで「進路に関する情報を積極的に提供し、生徒への進路指導は十分行われている」が A：80%以上であった。 B：70%以上であった。 C：60%以上であった。 D：60%未満であった。	生徒	94.2%	・保護者や生徒への情報提供など進路指導に関する評価は昨年度に引き続き90%を超えており、概ね達成できた。総合的な探究の時間やLHRの時間を中心とした進路ガイダンスや個別指導等を計画的に行い、進路指導部と学年回、生徒、保護者の連携が図れた結果といえる。来年度も引き続き生徒の進路実現に向けて、3年間の「つなぎ」を意識したキャリア教育の推進に努めたい。	A		A
	就職内定率100%	①求人開拓 ②個別面接指導 ③就職課外指導 ④企業見学への参加	就職内定率が A：100%であった。 B：90%以上であった。 C：80%以上であった。 D：80%未満であった。	資料		・本年度も地元企業を中心に各事業所を訪問し、求人開拓を行った。求人状況は良好で、13年連続就職内定率100%を達成できた。今後も地域にとって有為な人材を育成できるよう努めたい。また本年度より求人票デジタル共有システム「Handy進路指導室」を導入し、求人票をデータ化することで生徒や保護者がスマートフォンやタブレットで閲覧できるようになり、利便性が高まった。	A	・日頃から教員がしっかりと情報提供をされ、卒業後の進路へのアドバイスや指導をされている様子がうかがえる。 ・今後も続けていただきたい。 ・進路については、まだまだ積極的に外部の繋がりを強化し、社会や進学の意味を伝えたいといきたい。 ・就職内定率が上限が決まっているため100%になるのは当たり前であるが、求人票をデジタル化するのには重要である。 ・13年連続で就職内定率100%は素晴らしい。先生方の指導の成果があらわれていると思う。次年度も引き続き、きめ細かな指導をお願いしたい。 ・市立大においても、女子が優秀であると聞いている。 ・専門学校に進んだ生徒の就職状況の把握もあると良いです。 ・今後も進学率は高くなると予想されるため、商業高校としても進学コースが必要となるのでは。	A
	国公立大学を中心とした進学指導	①個別課外指導（小論文、面接、教科指導等）	第1志望の進学先に A：90%以上が合格した。 B：80%以上が合格した。 C：70%以上が合格した。 D：70%未満が合格した。	資料		・昨年度と同様に、小論文指導において全教員が協力し、複数の生徒に対して複数の教員が関与するグループ体制を継続して採用した。この取り組みにより、広い視点から生徒一人ひとりに合わせたきめ細かな小論文指導が可能となった。その結果、国公立大学において25名（長崎大学1名、下関市立大学23名、北九州市立大学1名）が合格を果たし、ほとんどの生徒も第1志望の進学先に合格することができた。来年度以降も今年度同様、小論文指導に併せて、面接、教科指導など、生徒たちの進路実現のためにも引き続き教員全体で協力し、支援していくことが不可欠である。	A		A
保健体育	健康意識を高め、自己の健康管理を実践する力の育成	①健康観察を徹底し、健康状況の把握に努める。 ②健康診断結果から、担任等と連携して治療勧奨を行う。 ③保健だよりの発行や、健康情報の発信を行う。 ④「生活アンケート（健康に関する）」を実施し、生徒保健委員会で掲示物を作成する。	健康観察の実施状況、健康観察結果を自己の健康管理に役立てることができた。 治療受診状況 保健だよりの発行状況 生活アンケート（健康に関する）結果から掲示物を作成することで、自己の健康について振り返ることができた。	資料		・インフルエンザや新型コロナウイルス感染症による学校閉鎖、学級閉鎖もあったが、健康観察を徹底させ対応することができた。 ・昨年度よりも若干、治療状況は上がっているが、来年度も継続して、治療勧奨プリントを複数回配付する等、治療勧奨に力を入れていきたい。また、毎月発行する保健だよりや掲示物とおして、健康情報の発信に努めた。 ・生徒保健委員会では「睡眠とスマホ利用について」生活アンケートを実施し、結果をまとめて掲示物を作成し下商祭で展示した。アンケート結果をおして、生徒一人ひとりが健康について振り返る機会につながった。	B	・コロナもインフルエンザと同じ扱いになり、マスクの着用も任意となって、その他の感染症の罹患も想定されるため、基本の手洗い等の予防は必要。	B
教育相談・人権教育	教育相談の充実	①学校生活アンケートの実施 ②対面による面談、メールによる相談の実施 ③教員間、S Cと協力して問題の改善を図る	学校生活アンケートを A：8回以上実施し、適切に対処した。 B：7回実施し、適切に対処した。 C：5回実施し、適切に対処した。 D：3回実施し、適切に対処した。 学校評価アンケート（生徒）の項目で「悩みに関する相談について、適切に対応していると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	資料		・毎月、学校生活アンケート等を実施して、生徒の実態の把握に努めた。記入があった内容については、個別面談を通して担任から確認してもらった。 ・生徒の抱える問題について全校体制で支援できるように、職員会議に情報交換会を設けて教員間で情報を共有した。S C、S S W等とも連携し、専門的な立場からの助言を受けた。生徒や保護者にとって可能な限りより良い方向に向かうよう努めた。	A	・生徒の様子をいつも気にかけ、変容を見逃さないように今後も頑張ってもらいたい。 ・HP上の教育相談室の利用や、相談方法の改善はどうか。 ・悩みを抱えている生徒の早期発見と適切な対処に努めてください。 ・記入しなかった生徒にこそ目を向ける必要性を感じている。日頃からのコミュニケーションが大切である。	A
	人権教育の推進	①クレバリン検査、Σ検査等を実施して生徒理解を深める ②人権、命の尊さに関する生徒向けの講演会の実施 ③教職員向けの人権教育、特別支援教育に関する研修会の実施	各種検査、生徒向け講演会、教職員研修会を A：全て実施した。 B：2つを実施した。 C：1つを実施した。 D：いずれも実施しなかった。	資料		・全校生徒を対象に、下関市・市民部人権・男女共同参画課より講師をお招きして、基本的人権と労働者としての人権について授業を行って頂いた。また、1年生を対象にAFPY、2・3年生を対象にアサーショントレーニング、全校生徒を対象にSOSの出し方といった心理プログラムを行い、心の教育の充実にも努めた。教職員に対しては自殺予防教育と特別支援教育に関する研修も行った。	A	・引き続きこの内容は継続してもらいたい。	A
	いじめ防止の推進	①いじめ調査（学校安全アンケート）の実施 ②授業やLHRを通して啓発活動を行う	学校評価アンケート（生徒）の項目で「いじめもなく友達とも仲良く学校生活を送っていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	94.8%	・人権教育の講演を通して、パワハラや、アルバイトをする上で知っておくべき事等を学ぶ中で「人としての権利」について考える機会を設けた。誰も身近な問題として捉えることができた。日頃、SNSのトラブルや心無い言動によって傷つく生徒は多い、日常生活の中に向けて、人権に配慮した行動ができるような啓発を今後も続けていきたい。	A	・このままの状況を継続し、安心安全な学校生活・校外生活ができるように努めていただきたい。 ・人権教育の講演が年に1回あるのかどうか分からないが、社会に出る際の重要な知識として意識してほしい。 ・パワハラを受けたダメージが大きく、した方は気付いていない場合が多々あるので、何がパワハラに当たるかを周知してほしい。 ・いじめにより最悪の結果とならないように、未然に防げるよう、色々なアンテナを張りめぐらせてください。 ・SNSでのトラブルは、学校は把握しにくい内容である。対策が難しい。	A
			学校評価アンケート（保護者）の項目で「いじめもなく友達とも仲良く学校生活を送っていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	保護者	94.5%	・1・2学期末に一度ずつ、保護者と生徒と一緒に回答する学校安全アンケートを実施し、校内外の危険箇所や、いじめや嫌がらせ等をも確認した。特にいじめや嫌がらせに対しては、担任や学年主任、生徒指導部と連携して問題解決に努めた。無記名で実施することによって問題を訴えやすくなる半面、教員の介入が難しいという問題点が残った。把握した状況を元に、教員が継続的に見守っている。	A		A

図書	読書習慣の育成	①朝の読書の継続	朝の読書時間で本に触れている。	資料	生徒にとって日々の読書のスタートの時間になっている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 本を読むためのメリットなど、説明はあるのか。 生徒が本に興味を持つような機会と環境作りは大事であると思う。 卒業生に聞いて、世の中の現状を知る本を寄付してもらえばよいのでは。 まずは本を手にとってみるのが大事。 蔵書数も多く立派な図書館を多くの生徒に利用してほしい。 	A
		②「万古館だより」による新着図書、推薦図書の案内	図書館を利用している。	資料	一定数の利用はあるが、継続的な利用者や、全体の数の伸び悩みは感じられる。			
情報	情報機器・校務システムの運用	①学習用端末の活用・管理 ②校務システムの新しい評価基準への対応	学習用端末や校務システムなどが整備されており使用しやすい環境である。	教員	93.3%	A	・特にありません。	A
第1学年	基本的な生活習慣の確立	①授業や学校生活の中で凡事徹底を図る ②将来を見据えた目標設定や生き方・あり方を具体的に考える	学校評価アンケート（生徒）の項目で「基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけるよう努めている」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	97.6%	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年間のチームワークの良さを感じる。また、チームワークの良さが生徒に伝わっているようだ。それに、保護者も巻き込んでおられ素晴らしいと思う。 例年に比べ積極的なあいさつができなくなっている。 保護者に対しての理解、共有、アピールなど、ある一定の発信を再検討する必要がある。 	A
			学校評価アンケート（保護者）の項目で「本校は学校と家庭の連携がうまくいっていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	保護者	83.6%	B	<ul style="list-style-type: none"> いつも生徒に会えば気持ちの良い挨拶を受けます。 入学時から規則正しい生活習慣を身に付けておけば、今後の高校生活の土壌ができて、落ち着いた学校生活を送ることができる。さらに進級することで勉強への取り組みに益々積極性も出て、進路への目標も定まってくるのではないだろうか。 凡事徹底こそ大切である。 	
第2学年	キャリア教育を充実し、進路についての目標を確立する	①授業やLHR等を通して将来のビジョンを具体的に考える ②家庭と密に連絡を取り情報提供に努める	学校評価アンケート（生徒）の項目で「あなたは、自らの進路について、はっきりとした目標をもち学校生活を送っていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	86.3%	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年間のチームワークの良さを感じる。また、チームワークの良さが生徒に伝わっているようだ。それに、保護者も巻き込んでおられ素晴らしいと思う。 高校までに将来の明確な進路を見つけれないことが悪いとは思わない。 全てを一生懸命取り組む指導は良いと思う。 学内で解決することに限界があるのであれば、外部連携など考えてみてはどうか。 2学年は昨年より生徒及び保護者共に評価が上がっているの、さらに意思疎通をしっかりと図りサポートしてほしい。 進路指導のためのLHRは確保していただきたい。 	A
			学校評価アンケート（保護者）の項目で「本校は学校と家庭の連携がうまくいっていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	保護者	83.6%	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習、進路、部活、人間関係、健康、家庭の事情など保護者の方々よりさまざまな相談や情報を寄せていただいた。そのおかげで生徒の抱える課題にそれぞれの立場で協力して支援する体制ができたと思う。しかし、価値観や考え方の接点を見出すのが難しいこともあり、生徒や保護者の方の思いにどれほど寄り添えるかが今後の課題である。 	
第3学年	社会人基礎力を習得させ、自ら主体的に考え行動できる力を養成する	①自己実現に向けて社会性や主体性を育めるよう学校生活をサポートする ②保護者と密に連絡を取り、定期的な進路情報を発信する	学校評価アンケート（生徒）の項目で「本校に入学して、言葉遣い、マナーなど社会人として必要な資質が向上していると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	94.2%	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年間のチームワークの良さを感じる。また、チームワークの良さが生徒に伝わっているようだ。それに、保護者も巻き込んでおられ素晴らしいと思う。 生徒が自ら自覚することは、本人の喜びになり、成長し続ける要素となる。 社会で生きるための必要性を自覚させる指導は、学内では限界があるのではないかと。 情報の開示は年々困難になっているため、専門的な方々のケーススタディを学ぶべきかもしれない。 2年間はコロナで学校行事や部活動も制限され不自由な学校生活となっていたが最終学年では学校行事での団体行動や部活動での自己目標の達成などの自己形成に必要な取り組みができたのではないだろうか。 	A
			学校評価アンケート（保護者）の項目で「本校は学校と家庭の連携がうまくいっていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	保護者	83.6%	A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページやマチコメール、学校生活アンケートを利用したり、時には直接電話をしたり、面談、家庭訪問をすることで家庭との連携をなるべく多く取れるように努めた。しかし、一部の家庭で学校で渡したプリントが生徒から保護者に届かないなどの課題も見受けられた。プリントや伝達事項の大切さ、高校生としての責任感等を指導していく必要性を感じた。 	
商業科	1学年…ビジネスの基礎とビジネスマナーの育成	簿記・ビジネス基礎・情報処理の基本3教科の知識・理解を定着させるために補習と課外を実施する	日商簿記3級130名以上、全商情報処理2級145名以上の取得	資料	<ul style="list-style-type: none"> 授業担当者において、授業改善、検定課外を実施し、全商情報処理検定では144名が合格した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 実業高校の実力をいかに発揮されている。 先生方の努力のお陰である。 今後、就職する上で資格の取得は重要であると思う。今後も意欲的に取り組んで欲しい。 	A
	2学年…コース別学習の充実、上級資格取得への取組	①グループワークや外部講師による講演、校外学習などを実施する ②全商検定1級取得をめざす	グループワーク等を積極的に取り入れる。全商簿記実務検定1級50名以上、全商ビジネス計算実務検定1級25名以上、全商ビジネス文書実務検定1級15名以上の取得	資料	<ul style="list-style-type: none"> 1学年同様、個別指導や検定課外を実施し、全商簿記検定では、1級に33名、全商ビジネス計算実務検定1級23名、全商ビジネス文書実務検定1級8名合格した。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 実業高校の実力をいかに発揮されている。 先生方の努力のお陰である。 今後、就職する上で資格の取得は重要であると思う。今後も意欲的に取り組んで欲しい。 	B
	3学年…社会人基礎力の育成、全商1級3種目の取組	①「総合実践」でビジネスマナー教育を実践 ②商業経済検定1級の取得で全商検定1級3種目取得をめざす	全商検定1級3種目以上合格者数30名	資料	<ul style="list-style-type: none"> 全商検定1級3種目以上合格者数17名を達成した。総合実践ではビジネスマナー、チャレンジショップでは販売実習で実践的な体験活動を実施した。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 実業高校の実力をいかに発揮されている。 先生方の努力のお陰である。 今後、就職する上で資格の取得は重要であると思う。今後も意欲的に取り組んで欲しい。 	B
情報処理科	2学年…意欲的に資格取得に取り組む	全商情報処理検定1級ビジネス情報部門および、2級プログラミング部門の取得の取得を目指す	情報に関する応用的な内容の理解と、全商情報処理検定1級ビジネス情報部門および、2級プログラミング部門の取得。	資料	<ul style="list-style-type: none"> 全商情報処理検定1級ビジネス情報部門21名、2級プログラミング部門27名の合格者を達成した。全商検定1級3種目以上合格者が8名に達した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 実業高校の実力をいかに発揮されている。 先生方の努力のお陰である。 今後、就職する上で資格の取得は重要であると思う。今後も意欲的に取り組んで欲しい。 	A
	3学年…情報に関する専門性を高める	課題研究、選択科目を通して、高いレベルの知識・技術を習得する	全商検定1級3種目以上合格者数20名 高度資格取得（日商簿記2級、ITパスポート）	資料	<ul style="list-style-type: none"> 全商検定1級3種目以上合格者が13名、日商簿記検定2級・1級合格者7名、ITパスポート合格者4名を達成した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 実業高校の実力をいかに発揮されている。 先生方の努力のお陰である。 今後、就職する上で資格の取得は重要であると思う。今後も意欲的に取り組んで欲しい。 	B
特色ある教育活動の推進	実践的な取組	①持続可能なコミュニティ・スクールの取組の展開 ②チャレンジショップの更なる発展 ③課題研究の取組の充実 ④高度資格取得に向けた取組の充実	学校評価アンケート（生徒・保護者）の項目で「本校は特色ある教育活動を行っていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	95.5%	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後共、続けて頂きたい。 継続性・改善に余地があり、この部分が商業の優位性を占めるため、専門性を上げた方が良いと思う。 今後も地域や企業等とつながりを持った活動を積極的におこなって欲しい。 同窓会と協力して意欲向上の為、生徒に還元できるようにお願いしてほしい。 コミュニティ・スクールの機能のひとつである地域貢献の積極的な推進に期待する。 	A
			日商簿記、ITパスポート等の高度資格取得合格者数の割合及び合格者数が前年度比 A：割合、数ともに増加した。 B：割合、数のいずれかが増加した。 C：変わらなかった。 D：割合、数ともに減少した。	保護者	94.9%			
業務改善	高度な学習の展開	①各分掌において業務の精選を図り、適切な業務分担を行う ②各業務の目的を共有し協働して教育活動を行う業務体制を整える	学校評価アンケート（教員）の項目で「在校等時間記録表に基づきセルフジョブコントロールを推進している」が、 A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	教員	53.3%	C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の為にと思えば無理されるようになると思うが、無理をし過ぎないようにしていただきたい。 セルフジョブコントロールがストレスになってしまうことが懸念される。 一番遅れており、問題である。教員のモチベーションにもつながるため、業務体制を考えることは重要だと思う。 超過勤務については、やや削減されているが、働き方改革に対する意識を高めて余裕のある生徒対応ができるよう努めてほしい。 	C
			学校評価アンケート（教員）の項目で、「長期休業中の「時差出勤」等の活用を推進し、業務時間短縮に努めている」が、 A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	教員	60.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は基本情報技術者試験の合格者が1名、ITパスポートの合格者が8名だった。基本情報技術者試験は部活動ではなく個人受験である。今後は、コース必修の学習の延長として合格者増に期待したい。 長期休業中の「時差出勤」等の活用推進と業務時間短縮についてはアンケートの結果は60.0%であり、今年度はあまり意識されていない。今後は教職員に対して働きかけ、業務時間削減に向けての意識を持ってもらい、協働体制を整えて行く必要がある。 	B
業務改善	働き方改革に係る具体的行動	①業務時間削減に向けて主体的に取り組む ②長期休業中は「時差出勤」等の活用を推進し、心身ともに良好に業務を進めることができる職場づくりを行う	学校評価アンケート（生徒）の項目で「基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけるよう努めている」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	97.6%	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年間のチームワークの良さを感じる。また、チームワークの良さが生徒に伝わっているようだ。それに、保護者も巻き込んでおられ素晴らしいと思う。 高校までに将来の明確な進路を見つけれないことが悪いとは思わない。 全てを一生懸命取り組む指導は良いと思う。 学内で解決することに限界があるのであれば、外部連携など考えてみてはどうか。 2学年は昨年より生徒及び保護者共に評価が上がっているの、さらに意思疎通をしっかりと図りサポートしてほしい。 進路指導のためのLHRは確保していただきたい。 	A
			学校評価アンケート（保護者）の項目で「本校は学校と家庭の連携がうまくいっていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	保護者	83.6%	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習、進路、部活、人間関係、健康、家庭の事情など保護者の方々よりさまざまな相談や情報を寄せていただいた。そのおかげで生徒の抱える課題にそれぞれの立場で協力して支援する体制ができたと思う。しかし、価値観や考え方の接点を見出すのが難しいこともあり、生徒や保護者の方の思いにどれほど寄り添えるかが今後の課題である。 	

<p>6 学校評価総括（取組の成果と課題）</p> <p>【総務】インターネット、学校案内、学校要覧による情報発信はよくできた。今後ともタイムリーな情報発信に努めていきたい。</p> <p>【教務】目標については概ね高い水準を維持している。新教育課程移行に伴う科目や教材の変更、評価の方法が変わったことによる各教員の負担は依然大きい。コロナウイルスやインフルエンザによる学級閉鎖や新しく始まった行事による授業振り替えなど授業時間の確保が課題となった。</p> <p>【生徒指導】5月の連休後、新型コロナウイルス感染症の5類移行により、学校行事が大きく変わることになった。感染予防として多くの制限を設け実施していたが、以前の形に戻し実施することが出来た。姉妹校行事では、鹿児島商業高校の皆さんを本校に招き、生徒会ならびに硬式野球部の交流会が実施できた。下関球場で実施した、交流試合では全校応援の形で行うことができ、生徒にとって貴重な体験となったと感じている。また、昨年度より進めている校則の見直しについても、アンケート結果や生徒会を中心に協議しながら、実業高校としての在り方も同時に考えながら今後も積極的に行っていきたいと感じている。清掃活動への意識をさらにあげられるような取り組みとして、各掃除区域の清掃状況をチェックするなど、生徒会や委員会活動を活性化させていきたい。情報モラル教育について、外部講師による講義を行い、意識を高めることができた。また、各学期の始業式、終業式の際に、注意喚起を行った。</p> <p>【進路指導】就職に関しては13年連続内定率100%を達成することができた。次年度も事業所との情報交換を図り、就職先の確保に努めるとともに、地元で就職して地域に貢献できる人材の育成に努めたい。進学に関しては昨年度からの取り組みであるグループ体制での小論文指導を再検証し、指導体制を確立していきたい。また3年間の継続したキャリア教育を推進し、社会的・職業的自立に向けた基礎的・汎用的能力の育成を図りたい。</p> <p>【保健体育】担任等と連携し、健康観察の徹底を図るとともに、保健日より生活アンケート結果等をととして健康情報の発信に務めた。また、今年度も心身の不調を訴える生徒や保健室利用が多かったため、今後も継続して担任や教育相談、SC等と連携し、共通理解を図り、組織的に対応していきたい。</p> <p>【教育相談・人権教育】生活アンケートや学校安全アンケート、担任の面談等を通して生徒の実態を把握することができた。生徒の意識にも、困ったことがあれば周囲の大人に相談するという意識が十分根付いているように見受けられる。心の問題を抱えた生徒が増えていることを鑑みると、校内の支援体制がより充実することが望まれる。</p> <p>【図書】学校司書の活動により、読書活動、学習活動に適した図書館になっている。教科活動、授業とのリンクがより進めば、さらに利用が活発になるものと思われる。</p> <p>【情報】昨年と比べて学習用端末を活用する機会は増えているが、より積極的に活用するためには授業等で活用方法の指導をしていく必要がある。昨年度の課題であった故障機が増えてきている問題については1年に約4台分の予算をつけていただいたこともあり、現時点では台数を確保して運用できている。</p> <p>【第1学年】学校生活を充実して送っている生徒が非常に多く、ほとんどの生徒が基本的な生活習慣が確立している。上級生に上がっても乱れることなく、自らの可能性を模索し成長し続ける生徒を他の教員とも協力して目指していきたい。一方で心のケアが必要な生徒に対してもしっかりとサポートをしていきたい。</p> <p>【第2学年】各行事に意欲的に取り組み、日々の生活を謳歌している生徒が多くみられる。学習態度や規律面も良好である。一方で人間関係のトラブルやコミュニケーションの課題もあるため、他者を思いやり多様性を自然に認め合う集団作りをさらに目指したい。</p> <p>【第3学年】生徒の自己実現に向けて、分掌、学年、保護者との連携を意識しながら取り組むことが出来た。高校最後の1年間を生徒の思い出づくりを行いながら、社会人としての意識、マナー指導などを行うことが出来た。</p> <p>【商業】新旧の教育課程ともに授業内容についてはある程度目標を達成できた。ただし、検定の受験者数の把握や担任や教科担当者との連携をうまく図れなかった。特に第2学年については合格者数の見積もりが甘く、受験の励行も不十分だったと思う。来年度で新教育課程の完成年度になるので3年間の流れをしっかりと確立したい。</p> <p>【情報処理】情報処理科の担任や教科担当者との連携を図り、生徒一人ひとりの成長が結果として現れた。3年生の進路では、国公立大学5名や公務員合格1名も含めて多くの生徒の進路実現を果たした。来年度からは、新3年生に対する新教育課程に向けた指導を検討し、より良い学科編成を計画していきたい。今後も、多くの生徒が全商検定1級3種目以上合格や高度資格の取得ができるように指導を継続したい。</p> <p>【業務改善】校務多忙の解消のため、電子化による効率化を図っている。教職員間において情報共有により組織的な対応を心掛け、業務を遂行している。今後もより一層、協働体制の強化を図り、業務負担に偏りのないように取り組みたい。また、引き続き校務の総点検を行い、更なる業務の精選・簡素化を推進したい。</p>
<p>7 次年度への改善策</p> <p>【総務】WEBページのさらなる充実を図るとともに、分掌内の仕事の精選と分担を検討していきたい。</p> <p>【教務】基礎学力の向上や資格取得に向けて、家庭学習の習慣化の定着を図る。また新教育課程の全学年移行に伴う教科指導や評価についても検討していく。</p> <p>【生徒指導】学校行事について、コロナ禍の経験も踏まえ、よりよい学校行事にしていきたい。規範意識を高めるために、「ルールを守る」といった意識だけでなく、「そのルールの必要性」を理解させることを意識した指導が展開できればと考えている。清掃活動については、校外清掃活動にチャレンジしてみたい。情報モラル教育については、トラブルの未然防止の観点だけでなく、望ましい利用の仕方についても触れていきたい。</p> <p>【進路指導】就職に関しては今後も地元企業と連携を図り、地域の活性化を担う人材を送り出せるよう努めたい。進学に関しては多様な進学先に対応できるように指導体制を確立していきたい。また、生徒や保護者に対して進路情報の提供も積極的に行いたい。</p> <p>【保健体育】健康観察や治療動向については、担任等と連携し継続して徹底させていきたい。また、心身の不調を訴える生徒や保健室利用も多いため、担任や教育相談、SC等と連携し共通理解を図り、組織的に対応していきたい。</p> <p>【教育相談・人権教育】生徒や保護者が安心して相談できる体制作りと、人権教育、心の教育、教職員研修等の更なる充実を図りたい。</p> <p>【図書】読書センター、学習センター、情報センターとしての機能をより充実させていきたい。</p> <p>【情報】業者と連携をしてより良い環境整備をしていかなければならない。また、教員の業務改善ができるよう校内研修なども実施したい。</p> <p>【第1学年】より充実した学校生活が送れるよう、学習指導や進路指導の充実を図りたい。また、自尊心を高め、他者尊重の温かい心を育み、よりよい生き方やあり方を模索するさまざまな機会を提供し、人間的成長に寄り添いたい。</p> <p>【第2学年】高校生活最後の1年を充実したものにすべく、一人一人の生徒の抱える課題の解決やよりよい進路実現に向かって伴走していきたい。</p> <p>【第3学年】生徒と保護者との連携をなるべく早い段階から取り、生徒が望む進路実現が出来るようにしていきたい。</p> <p>【商業】新教育課程の完成に向けて完成年度の3年目を滞りなく実行するために、それぞれの教員が役割を分担して組織的に対応していきたい。</p> <p>【情報処理】資格取得や進路実現に向けて適切な指導が行えるよう、教員間の連携と生徒の意欲向上を図る。</p> <p>【業務改善】今年度、業務改善へ向けて部活動の統合等について検討を行った。次年度に向けて分掌についても検討し、業務の偏りを改善するとともに協働体制の強化を図っていきたい。</p>